

事業の目的

ウィズコロナ時代に対応した非接触・非対面型の物流システム(幹線輸送モデル、BtoC配送モデル)を構築しサプライチェーンの強靱化を図るため、デジタル技術などを用いた新たな輸配送方法等の調査・実証を行う。

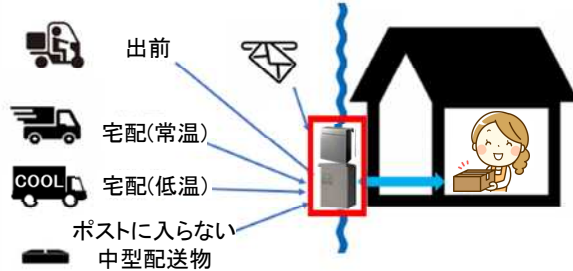
事業の概要

- 地域内のラストワンマイル物流の持続可能性を高めるとともに、「新しい生活様式」に適応した「新たな配送形態」を構築するため、地域コミュニティや配送事業者との連携により、AI・IoT等の先端技術やシェアリングを駆使しながら、非接触・非対面型のBtoC配送モデルについて実証事業を通じて検証し、横展開を図る。
- 貨客混載輸送や中継輸送を活用し、デジタル技術を駆使した非接触・非対面型の幹線輸送モデルについて、実証事業を通じて検証し、優良事例等の横展開を図る。なお、当該実証事業においては、手荷役作業が多く接触機会も多い食品流通を重点的な支援対象とする。

【BtoC配送モデル(イメージ)】

個人宅 ・宅配ボックスを個人専用着荷デポと位置づけた受領印不要の中型配送物と食品等の宅配に係る実証

- ✓ 隠れ再配達削減
- ✓ 食品カテゴリー配達完了



集合住宅 ・集合住宅におけるオートロックエントランス解錠デバイス技術を活用した非接触・非対面型の置き配に係る実証

- ✓ 住民不在でも配達完了
- ✓ 在宅時でも非接触

オートロックエントランス解除システム



【幹線輸送モデル(イメージ)】

中継輸送 ・スワップボディコンテナ車両を用いた中継輸送による幹線輸送に係る実証

スワップボディの事例



貨客混載 ・高速バスを用いた貨客混載輸送による小口幹線輸送に係る実証

